

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 5 月 21 日現在

機関番号：32663

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2022

課題番号：19K12934

研究課題名（和文）西欧自然哲学の成立・展開にたいするイスラーム哲学の影響の解明

研究課題名（英文）Study about Islamic philosophy's impact on the development of the Medieval natural philosophy

研究代表者

高橋 厚（タカハシアダム）（Takahashi, Atsushi）

東洋大学・文学部・助教

研究者番号：70817395

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、西欧自然哲学の成立・展開にたいしてイスラーム哲学はいかなる影響を与えたのかという問いの解明を試みた。特に十二世紀アラビアの哲学者イブン・ルシュド（アヴェロエス）が、アリストテレスの著作に基づきながらも、天体の魂やその摂理的働きを強調する思想を展開したこと、またその思想をスコラ学者が批判的に受容するなかで十三世紀以降の自然哲学が展開したことを明らかにした。さらに、アヴェロエスの思想の成立には古代末期のアフロディシアスのアレクサンドロスの思想が前提となっており、その宇宙論がアリストテレス主義の主調を規定していることも明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

十二世紀から十三世紀にイスラム世界からギリシア語やアラビア語の文献がラテン語訳されて、それが西欧中世の文化的隆盛に繋がったことはこれまで指摘されてきた（「十二世紀ルネサンス」論）。だが、実際に訳されたテキストがどのように読まれ、新たな世界像の形成に寄与したのかの具体的な姿が既存の研究では十分に明らかにはされてこなかった。本研究は、現代では対立面が強調されがちなイスラム世界と西欧との間で密接な文化的な影響関係が存在しており、後者の科学の成立にとって前者の哲学的思想が寄与したことを明らかにできた点で、学術的および社会的意義も有していると考えている。

研究成果の概要（英文）：This research aimed to elucidate the influence of Islamic philosophy on the formation and development of natural philosophy in the Latin West. Specifically, it focused on the philosophical ideas presented by Ibn Rushd (Averroes), a 12th-century Arab philosopher who emphasized the concept of celestial souls and their providential functioning, drawing from Aristotle's works. It also revealed how these ideas were critically received by scholastic scholars, leading to the advancement of natural philosophy from the 13th century onwards. Additionally, it became evident that Ibn Rushd's philosophy was built upon the thoughts of Alexander of Aphrodisias and that the latter's cosmology played a crucial role in shaping Aristotelianism.

研究分野：哲学史

キーワード：自然哲学 スコラ哲学 イブン・ルシュド アヴェロエス アフロディシアスのアレクサンドロス アリストテレス トマス・アクィナス

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

12世紀から13世紀にかけてシチリアやスペインなどで、アラビア語からラテン語への翻訳運動が生じ、そこから西欧での文化的隆盛が始まったことが既存の研究では強調されてきた。だが、そこで翻訳されたテキストがどのように西欧世界の自然観や宇宙論の形成に寄与していたのかが十分に考察されてこなかった。13世紀以降の西欧の科学的思想の理解には、特に12世紀の哲学者イブン・ルシュド(アヴェロエス)によるアリストテレスの著作の註解書の受容を明らかにすることが必要不可欠である。

## 2. 研究の目的

本研究では、13世紀以降の西欧の自然哲学がアラビア語圏由来の哲学的伝統の受容を前提としてどのように成立したのかを明らかにすることを目的とした。現在の西欧の地域では、一部の論理学的著作以外、長らくギリシア哲学の伝統が途絶えており、アラビア語圏からのテキストの翻訳を通してようやく12世紀末以降に、その伝統が改めて隆盛することになった。現代の物理学や化学、そして生物学に相当する学問領域も、近代以前には「哲学」として考えられていた。このような科学的哲学、すなわち「自然哲学」の基礎を築いたのは古代ギリシアのアリストテレスであり、十七世紀初頭までの知識人たちは彼の著作を読み解くことで自然現象や宇宙の構造を明らかにしようとしたのだ。ただし、アリストテレスの著作が単体で読まれたのではなかった。彼の著作の「註解者」であるイブン・ルシュド(アヴェロエス)の註解書も合わせて参照されたのである。本研究では、従来軽視されてきたイブン・ルシュドの註解書がいかなるオリジナリティーを備えており、その影響が西欧の自然哲学の形成にどのように寄与したのかを明らかにすることを企図した。

## 3. 研究の方法

イブン・ルシュドによるアリストテレスの著作の註解書は、『魂について』や『形而上学』の一部を除くと、特に自然哲学的な分野の著作については未だその大半は精査を待っている状態にある。近年、ルス・グラスナー(Ruth Glasner)が初めてイブン・ルシュドの自然学について最初の研究書を出版したが(*Averroes' Physics*, Oxford, 2009)、それも『自然学』の註解書の分析に限られていた。したがって、特に『天界論』『生成消滅論』『気象論』、そして一連の『動物論』にたいするイブン・ルシュドの註解書とその西欧における受容については未開拓の状態に留まってきた。

そこで、本研究では特にアリストテレスの『天界論』に対するイブン・ルシュドによる註解と、また『天球という実体について』と呼ばれるイブン・ルシュドのオリジナルな著作の西欧における受容に焦点を絞って研究を推し進めた。スコラ学者の中でも、アルベルトゥス・マグヌス、トマス・アクィナス、そしてジャンドゥンのヨハネスの三者に特に注目して、彼らがイブン・ルシュドの示したアリストテレス解釈やそこから浮かび上がる世界像をどのように批判的に受容しながら彼ら自身の思想を表現したのかを検証した。

## 4. 研究成果

もっとも特筆すべき成果として、単著『哲学者たちの天球 - スコラ自然哲学の形成と展開 -』(名古屋大学出版会、2022年)を上梓し、イブン・ルシュドの自然哲学の内容とその西欧における受容について一定の見通しを示すことができた。13世紀のキリスト教神学とアリストテレス的哲学との融合である「スコラ学」に関する既存の研究では、トマス・アクィナスやドゥンス・スコトゥスの立場を中心としてその歴史が描かれてきた。だが、それではキリスト教神学とアリストテレスの哲学との間に存在していた理論的な緊張関係が見失われ、当時幾度も教会側から発布された哲学的教説への禁令の歴史的意味も理解不能となってしまう。この単著では、特に「摂理」の概念を軸として、哲学と神学との間に存在した対立を論じ、古代末期からイブン・ルシュドまでのアリストテレス主義的伝統において哲学的な摂理論が展開されたことを跡づけた。また、物質理論についてもこれまでの中世哲学研究では不当に看過されてきた部分であった。アリストテレスを読むことが自然世界の真実を明らかにすることであったとすれば、中世人も抽象的な存在論や論理学のみに関心を持っていたわけではないのである。彼らも私たちと同様に自然の事物や現象の物質的な側面に関心を示していたのだ。こうして『生成消滅論』や『気象論』のスコラ学的な解釈についても、この著作の中では論じた。

同様の主題については、国際的な中世哲学史研究誌 *Documenti e studi sulla tradizione filosofica medievale* から論文“Albert the Great as a Reader of Averroes: A Study of His Notion of the Celestial Soul in *De caelo et mundo* and *Metaphysica*”をすでに出版し、また Richard Taylor と Katja Krause が編者を務め、Brepols 社から2023年に出版予定の論集 *Albert the Great and His Arabic Sources*

にも論文を寄稿した。

このイブン・ルシュドの自然哲学に対するある一定の包括的な考察をもとに、13世紀の神学者トマス・アクィナスの『「天界論」註解』に対する研究も論文「摂理と天球の魂：トマス・アクィナス『「天界論」註解』とギリシア・アラビアの註解者たち」として『中世思想研究』から出版した(英語版については現在国際研究誌に投稿中である)。トマス・アクィナスについては、特にその『神学大全』についてはすでに十分な研究の蓄積があるが、彼のアリストテレスの註解については未だ多くの分野で研究が不十分な状態にとどまっている。その註解書のなかでも『天界論』のそれは、トマスの最晩年の作品にあたり、その重要性は過去にも指摘されてきたが、研究は不十分であった。特にトマスがイブン・ルシュドやシンプリキオスといった先行する註解者たちの作品をどのように用いて議論を発展させたのかについては研究が全く為されてこなかった。本研究では、トマスが「天体の魂」の教説についてはイブン・ルシュドの議論を反復しつつも、「神的摂理」の教説についてはアリストテレスおよび後世の註解者の議論に忠実を装いつつも、実際はそれとは異なる議論を展開していたことを示した。この点で、トマス・アクィナスにおけるアリストテレス主義の展開については、テキストの比較検討通じた精密な研究が重要であることが明らかとなった。

最後に、現在イブン・ルシュドの『天球という実体について』(*De substantia orbis*)の西欧における展開について二つの観点から研究を行っている。一つは、『天球という実体について』というテキストそれ自体の校訂版の作成に関するプロジェクトであり、もう一つはそのラテン西欧における受容史の研究である。後者については、現時点ではジャンドゥンのヨハネスを軸に研究を進めている。

これらの研究成果はまだ十分とは言えないが、イブン・ルシュドすなわちアヴェロエスの西欧における受容について、特に自然哲学の分野に関する受容については一定の研究成果を発表できたと考えている。今後は、未だ公開されていない写本についての調査を含めて、より広範な領域における受容について研究を進めていきたい。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 アダム・タカハシ	4. 巻 53
2. 論文標題 魂の不死の哲学 [第三回] : プロティノス『エネアデス』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 慶應義塾大学言語文化研究所紀要	6. 最初と最後の頁 329-346
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 アダム・タカハシ	4. 巻 56
2. 論文標題 魂の不死の哲学 [第四回] : アウグスティヌス『三位一体論』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 白山哲学	6. 最初と最後の頁 85-101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 アダム・タカハシ	4. 巻 49-1
2. 論文標題 神なる天体 中世における自然哲学	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 42-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 アダム・タカハシ	4. 巻 55
2. 論文標題 魂の不死の哲学 [第二回] : アリストテレス『ニコマコス倫理学』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 白山哲学	6. 最初と最後の頁 89-104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 アダム・タカハシ	4. 巻 52-15
2. 論文標題 偽アリストテレスの『宇宙論』、真作と偽書のはざままで	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ユリイカ	6. 最初と最後の頁 183 - 191
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 アダム・タカハシ	4. 巻 11
2. 論文標題 自然世界に秩序を与えるのは何ものか：アリストテレス主義における 神的摂理 と「一二七七年の禁令」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 西洋中世研究	6. 最初と最後の頁 111 - 124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Adam Takahashi	4. 巻 30
2. 論文標題 Albert the Great as a Reader of Averroes: A Study of His Notion of the Celestial Soul in De Caelo et Mundo and Metaphysica	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Documenti e studi sulla tradizione filosofica medievale	6. 最初と最後の頁 625 - 653
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 アダム・タカハシ	4. 巻 54
2. 論文標題 魂の不死の哲学 [ 第一回 ] : プラトン『パイドン』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 白山哲学	6. 最初と最後の頁 89 - 104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 アダム・タカハシ	4. 巻 64
2. 論文標題 摂理と天球の魂：トマス・アクィナス『「天界論」註解』とギリシア・アラビアの註解者たち	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中世思想研究	6. 最初と最後の頁 26 - 40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件 (うち招待講演 3件 / うち国際学会 2件)

1. 発表者名 Adam Takahashi
2. 発表標題 The Celestial Soul and Providence: Aquinas 's Reception of Aristotelian Cosmic Theology in his Commentary on De Caelo
3. 学会等名 The Aquinas and the Arabs International Working Group (AAIWG) International Meeting (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 アダム・タカハシ
2. 発表標題 プロティノスとアウグスティヌス：魂の降下と神の享受をめぐる
3. 学会等名 哲学オンラインセミナー（ウィンター・レクチャー・シリーズ）（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 アダム・タカハシ
2. 発表標題 中世哲学における抽象的認識：アヴェロエス、トマス・アクィナス、ドゥンス・スコトゥス
3. 学会等名 「抽象と概念形成の哲学史 古代から現代へ」(日本哲学会共催・哲学オンラインセミナー)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 アダム・タカハシ
2. 発表標題 神なる天体 中世における自然哲学
3. 学会等名 京大中世哲学研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 アダム・タカハシ
2. 発表標題 トマス・アクィナス『「天界論」註解』への新たなアプローチ
3. 学会等名 中世哲学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Adam Takahashi
2. 発表標題 Angelic Nature: Alexandre Koyre; Revisited
3. 学会等名 Nature, Technology, Metaphysics (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Adam Takahashi
2. 発表標題 La cosmologie aristotelicienne et la condamnation de 1277
3. 学会等名 Conference Maison Universitaire France Japon (招待講演)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 アダム・タカハシ（分担執筆）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 336
3. 書名 世界哲学史 5（第四章「近世スコラ哲学」（97-126頁）を担当）	

1. 著者名 アダム・タカハシ（分担執筆）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 富山大学	5. 総ページ数 176
3. 書名 抽象の理論をめぐる哲学史 古代から近代まで （第二章「中世哲学における抽象的認識」（30-49頁）を担当）	

1. 著者名 アダム・タカハシ	4. 発行年 2022年
2. 出版社 名古屋大学出版会	5. 総ページ数 318
3. 書名 哲学者たちの天球	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------